

No. 793 12 de Febrero  
**EL "ARGENTIN DJIJO"** AÑO XV

DIRECCION:  
 USPALLATA 981  
 U. T. 23-7051, B. O.

FRANQUEO PAGADO  
 TARIFA REDUCIDA  
 CONCESION 718

**大阪商船會社指定**  
**三等乗船切符仲次所**  
 大阪商船會社船客御送迎と就  
 ては懇切迅速に御便宜と御取計  
 申可候間御遠慮なく下説へ  
 御用命賜度候



**船泊御用商**  
**森川塩澤商店**  
 PASO COLON 470  
 U. T. 23-4171  
 U. T. 23-4988

**OSAKA SHOSEN KAISHA**  
 Av. Roque Saenz Peña 616 U. T. 33, AVENIDA 1051 - 1052 - 1053 - 2565  
 2º PISO COOPERATIVA CENTRAL 2047  
 BUENOS AIRES



**大阪商船**

●北米ハナハチ船由日本行「一年十四回」換算まで  
 ●アフリカ船由日本行「毎月一回」門司まで  
 ●北米ハナハチ船由日本行「一年十四回」換算まで  
 ●アフリカ船由日本行「毎月一回」門司まで  
 ●北米ハナハチ船由日本行「一年十四回」換算まで  
 ●アフリカ船由日本行「毎月一回」門司まで

乗船運賃		貨物運賃	
船種	運賃	船種	運賃
日本行	一等 四九〇円 二等 三三〇円 三等 二二〇円	日本行	一等 九三円 二等 八五円 三等 七七円
南米行	一等 四九〇円 二等 三三〇円 三等 二二〇円	南米行	一等 九三円 二等 八五円 三等 七七円

▲小兒運賃 旅券記載生年月に依り満十二歳未満「半額」、満七才未満「四分の一」満三才未満無賃、満四才以上亞國生れの方は、亞國旅券必要  
 ▲乗船支拂 日本行運賃は全部米貨運賃です。一等は乗船切符買求め當日の換算率、三等は本船入港當日の換算率(何れも自由市場率)に依り運賃にてお拂ひ願ひます。一等は定額運賃(割の出國税が掛ります)。(二等は無税)  
 ▲歸國御手續 旅券面に日本領事の査証が要ります。三等客は乗船前乗船手続の健康診断を受け下さい。切符は本船入港當日から出帆前日迄發賣  
 ▲日本より御呼寄の便法當地にて乗船支拂あれば乗船券引換証差上ま  
 ▲但し移民局發給入國許可証及日本領事館發給呼寄證明書持参下さい  
 ▲鐵道省乗車券發行 日本第一港から本船切符の上陸港迄鐵道省汽車乗換の適合船便の代りに乗車券贈呈  
 ▲弊社内航線切符發行 弊社内航線寄港地を目的とする場合參等内航線切符贈呈 (但し沖繩、參等五割引)

**亞尔然丁時報**  
 DIARIO JAPONES

Director: T. MIDZUNO  
 Redacción: USPALLATA 981  
 U. T. 23, Buen Orden 7051  
 BUENOS AIRES

TARIFA DE SUBSCRIPCION  
 Un mes ..... \$ 2.-  
 Tres meses ..... " 6.-  
 Seis meses ..... " 12.-  
 Un año ..... " 24.-

**YAMASHITA LINE**

FAR EAST-NEW YORK-SOUTH AMERICA SERVICE  
 AGENT  
**CHADWICK, WEIR & Cía.**  
 25 DE MAYO 516 U. T. 31-0026-29

**"K" LINE**

KAWASAKI KISEN KAISHA Ltd.  
 KOBE, JAPAN  
 Representantes  
**J. E. TURNER & Co. S. A.**  
 RECONQUISTA 325 U. T. 31-3491-3

**キリスト教青年ホーム**  
 ペンシラン 定期又は一時的  
 聖書の研究 毎土曜日午後八  
 時より御來会自由  
 郵便物取次 率仕致します  
**守屋保吉**  
 Caseros 1983  
 U. T. 23-9872

**Semillería EL COLONO**  
 ABONOS :: HORMIGUICIDAS :: INSECTICIDAS  
 IMPLEMENTOS AGRICOLAS  
 SEMILLAS Y PLANTAS  
**J. S. GAGO**  
 IMPORTACION DE SEMILLAS  
 EN GENERAL  
 HERRAMIENTAS PARA JARDINES  
 GENERAL HORNOS 58  
 U. T. 23 BUEN ORDEN 7101  
 BUENOS AIRES  
 PIDA CATALOGO GENERAL

**川崎汽船西廻世界一周航路**  
 優秀船八隻就航  
 日本向け貨物迅速丁寧取扱致します  
**川崎汽船株式會社**  
 横濱比律賓海峽植民地印度及紅海沿岸諸  
 港スエズ運河經由加奈摩北米伯利西爾亞尔然丁  
 亞尔然丁伯利西爾巴奈馬運河經由太平洋  
 岸諸港 橫濱

TALLER  
MECANICO

de G. GONZALEZ

修理  
カプランチヤ機  
デライラの  
繕其  
他

SAN JOSE 220  
U. T. 38 - 5923

時計修繕  
電話で御一報次第参上致します  
市内カビルド街一七七八  
電話(五二)〇九三三  
守屋利夫

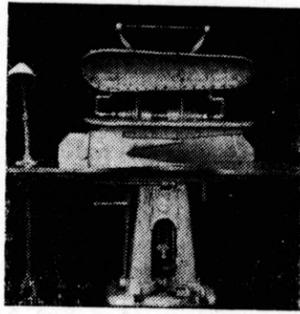
CABILDO 1178  
U. T. 52 - 0933

齊藤染色工場

設備完全  
仕事入念

邦人間唯一の  
染色工場

BELGRANO 3061  
U. T. 45 - LORIA 5442



新案  
高橋秀雄  
製造販賣修繕  
カプランチヤ機  
リファグ・クエトヨ  
のフアンチヤ機  
TBP  
案新  
高橋秀雄

Av. La Plata 1416

U. T. 60 - 9421

Foto TERAKAWA

FLORIDA 580  
U. T. 31 - 8571

晝夜撮影  
出張にも應じます  
寺川寫真館

TOYOKEN

25 DE MAYO 356 U. T. 31 - 0739

東洋軒  
料理部  
純日本料理  
折詰弁当  
并物一切麵類  
晝食  
配達致し并  
相変らず  
佈列立き

Masajista Japonés

SEGUOLA 1992-6  
U. T. 67 - 4591

山田忠重  
日本式マツサージ鍼灸  
リウマチス 神経痛 呼吸器病  
胃腸病その他一切の疾病に効る  
日本膏薬は西坂商店より  
取次致して頂ます

GRAN PREMIO EXPOSICION DE LA  
INDUSTRIA ARGENTINA 1933-34

BILLARES BRUNSWICK  
BANDAS MONARCH  
ULTIMA NOVEDAD "SNOOKER"

Solicite informes



Cía. Brunswick Sudamericana S. A.

1894 - CANGALLO - 1900  
U. T. 47, Cuyo 3577 - Buenos Aires

MATSUYA HOTEL

TAGUARI 580  
U. T. 34 - 1344

親切丁寧  
顧客本意  
浴室完備  
まつや旅館  
料理休む、并物一切  
日本菓子製造致す  
の念食に應じます

だ井物一品料理仕出し  
すし、おぼろ、饅頭、煮出し  
御婚祝、御誕生の祝儀  
御注文に應じます  
松田清市

BOLIVAR 1556  
U. T. 23 - 4092

"PLATA BRAUN" MARCA REGISTRADA



カフエーバアー  
レストラント用の  
メタル製品の  
御用命は日本人間  
に絶大の信用ある  
ZANUSINI  
月賦拂の御註文に  
應じます

BERNARDO BRAUN e HIJO  
CORRIENTES 4349 U. T. 54, Darwin 4111

ALMACEN  
NISHISAKA

AUSTRALIA 1101  
U. T. 21-2915

醤油味噌  
洋香粉 製造販賣  
日本食料品輸入販賣  
重甲万福油  
値段勉強配達迅速  
西坂賣本商店

DANCING  
COLON  
de MANOLO GOMEZ  
LEANDRO N. ALEM 622  
U. T. 31-1828

御酒其他の御飲料  
品質本位・真正正銘保証付  
タシシタ  
コロ  
タンゴのリズムに合したホルデー  
ニヤのサービスで南国情緒を  
満喫あれ

領事館銀行、船会社と近く  
御乗船御下船の便  
御下宿  
御旅館  
地方より出武の御便は是非御寄願す  
昭和館

25 DE MAYO 330  
U. T. 31 - 5145  
BUENOS AIRES

"KEROGAS"

Ing. F. STUCKLER

U. T. 51-3252 PACHECO 3260

最新型ケマド・プレス及び  
タンクス・ア・プレシオン  
製作販賣  
諸種ケマド・ル修繕・部分品  
販賣・日本人間にも多数顧客  
在りし仕事は入念迅速電話  
で御一報次第至急参上致します

TALLER GRAFICO

NIPPON

SANTIAGO DEL ESTERO 975

U. T. 23 - 7864

刷印版活文西

堂ンポツニ

種各他其、刺名前針等便  
寸寸上教命用御物不の少多

総川北





### 隨筆 事变下の正月風景

加藤新吉

#### お正月

今時お正月の記事もあつた、まゝか書く時が暑氣分り酔興の上のこと、文中お差支への向には御免下さい。

#### 統制万能

近年改所の御重地、統制経済の強化大統行、やれ輸出品各品別の検査場設置又は何れ組合等々兩儀の筒の如く生れ

#### 循環作用

寅歳は荒れると云ふて擔ぎ家は今年こそ繁華一擲とはずんで居るから成金も出来るだらうが、一般には多幸多難の年を迎へた様で居る。

#### オリビツク

昭和二十六年(明後年)のオリビツク東京大会も一時兎角の時もあつたが準備工作も着々進捗して此分は準備費もあつた、従つて在外邦人も此の機会に母國觀光も多かりんこと、想ひ私か体験したことを少し書いて見る。

#### 報國号献納基金

土日海軍省へ贈送

在日日本人会主催で善業したる在日同胞の赤誠籠もる報國号献納基金五万四千三百六十二円二十仙也は昨十一日の紀元節の佳き日、福同代理公使の手を経て紀元節祝電と共に海軍省へ電送された、かくて海軍省へ電送された、かくて海軍省の荒鷲の群中、在日同胞の雄姿が見られるのも近き將來とあつた。

#### 公館軍対南米チーム

本日の野球戦

既報、新築の南米チーム対公館チームの野球戦は本十二日午後四時半よりボカ球場で行はれるが、異色ある南米チームの対戦は大いに野球ファンに興味を惹いてゐる。

#### 将末は大競技会を

コリエンテス日会の一ツツ盛會に終る

コリエンテス市通信、コリエンテス日本人会主催大野遊會は予定の如く去る一月三十日、パラナ河畔モリナアンタに於て開演、本會長を始め在留同胞及び外人等約二百名、手にく日の丸

#### 紀元節并賀式行はる

聖戦下海に意表深き佳節なる紀元節を迎へ、帝國領事官御

#### 大野遊會御案内

拝啓時下御繁忙の折、御健勝の叙奉賀候、本會は去る二月十七日午前九時(雨天の際は二月二十三日)会場 *Barracão "Cacallaris" Morano* (C.O. (昨年と同場所)にて) 大野遊會を組織すべく候、今日本組、改組第一年の記念すべき時は有之候、向此催して殊更盛大にして一日の御清遊を満喫せられん幸を希望致し居候。

- 午前九時十分
  - 九時十分
  - 十時十分
  - 十時十分
  - 十一時十分
- 右御案内申上候  
二月十二日 日本人花園藝組合聯合會  
野遊會委員長 久木末次郎

#### 青年会ピツク御案内

一時日二月十五日前九時(夜間は午前八時)近江集合の事、場所キルメス河畔レクレオアラソコイネグロ(電車川増橋より線路沿ひ石一町) 音楽園附バイレ、水泳、乗馬等自由、セルベサアサド、食費附、飲み放題、食費放題 入場料、婦人令嬢七十仙、非会員ニメソ五十仙、外人三ツ、会員一メソ五十仙(会員は会員証を忘れず持参のこと)

#### 屋号変更

コリエンテス市比のカフエ店「カラニ」は今回「朝日」と改めたが毎日大繁昌の由



**JUGUETERIA TORRO**  
SARMIENTO 540  
U. T. 34 - Defensa, 1687

**トロイ玩具店**

玩具御買取は  
廉價・在庫品豊富の  
日本製玩具あり  
御申込次第型録送呈

歯科医療の  
御相談に應じます

日本歯科  
医学士 **山本実雄**  
應接時間 午前八時～午後十時  
市内エントレリオス街九七三  
号一階・ロビーニ三〇・五四二

日本産敷  
文化住宅 **建築**  
家具製造修理其他御用命を願ひ  
大工指物師 **山本玄**  
Av. del TEJAR 4817  
U. T. 741 (Florida) 3150

ラキリアム・ブツ  
ソックスベルド商会  
代理人  
**グイセンテ**  
シリアエーロ  
和 優良球根  
入 各種販賣

RIVADAVIA 5871  
U. T. 63-9962

**FRANCISCO SANTERO**  
EX-MECANICOS Cia. HOFFMAN

新案  
フランシス機械社にセン  
トリアガ製作販賣  
カライ街三二四一巷ノ角  
Calle Danel 1438  
U. T. 45 - 0294

自宅出張撮影  
複写引伸し  
何有、寫真でも御引受け致し  
市内サルタ街一五八  
ロ・三七一五七〇四  
寫真師 **佐藤貞則**

**MEDICINAL NEWS**

28 - Suipacha - 28

淋病梅毒 治療代は全治後頂きます  
肺結核新療法 月十ペソ以上の便あり  
婦人科。電気治療科  
X光線科 (各科専門医十名)  
診察料三ペソ 午前九時～十二時  
午後三時～八時  
日曜祭日は午前中

**Ernesto Coco**

15 DE NOVIEMBRE 2335  
U. T. 28 - 2885

**ケロセン廉賣**  
永年日本人洗濯店  
並に御家庭の  
御買取を蒙つて居ります



**Hans Von Engelbrechten**

REPRESENTACIONES  
BELGRANO 525  
U. T. 34-1497 - Buenos Aires

オアマン式フランシス機 は發賣以  
願客間に絶大の信用を得て居ります  
何卒定評ある本機を御使用下さい

**東大 國分鉄藏**

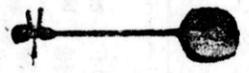
左記に於て歯科医療の  
御相談に應じます  
ドクトルエドアルド・キンタニヤ  
市内エドラス街六九二・四階  
デパルタメントN 電話三三三・三三〇

SEMILLERIA  
**Juan Calé & Cia.**

CASA MATRIZ  
123 - PUEYREDON - 123  
U. T. 47, CUYO 0065 y CUYO 0066  
COOP. TEL 1137, OESTE

Sucursal N.º 1: CORRIENTES 3176  
U. T. 62, Mitre 1954-C T. 223, Oeste

U. T. 47 Cuyo 8908-C T. 1105, Centr  
Sucursal N.º 2: RIVADAVIA 2425



琉球三味線教授  
土曜日午後二時より  
初等科  
日曜日中等科  
**安里電榮**  
MOMPox 1646  
U. T. 23, B. Orden 924

**RESTAURANT PAGODA**

A. P. R. Saenz Peña 614.  
U. T. 33 - 3738

**中華樓 餐室**

世界に誇る美味と營養  
是非一度御試食願ひませ

SASTRERIA "TORRO"

SARMIENTO 654  
U. T. 35, Libertad 1392

品買本位  
仕立入念  
八十五ペソ  
より各種  
**トロイ**  
高等  
洋服店  
二の成告加致  
御持参の方は  
一割引致します



ホマン式フランシス機  
並にカルデーラの修繕取付  
一切廉價に引受けます  
ホマン会社  
指定機械師 トリビオゴニス  
Carlos Calvo 1159  
U. T. 28 - 4564

御旅館  
御下宿 **双葉**  
和洋食月極め下應じます  
皆様の御愛顧を願ひます  
**尾崎幸千代**  
USPALLATA 818  
U. T. 23 (B. Orden) 573

# CLINICA MEDICA CANGALLO

CALLE CANGALLO 1542

Atendida personalmente por su Director

**Dr. A. GODEL**

Médico Cirujano

**最新式獨乙療法**  
 淋病—根治療法  
 梅毒—六〇六号九一四号  
 婦人病心臓胃腸 各科専門  
 肺腎臟神経系統  
 ◎日本人方には初診無料  
 X光線 デアアルミール 血液検査  
 診察日 自午前九時 至十二時  
 自午後三時 至九時  
 日曜祭日は午前中

無痛歯抜 ニベソ  
 セメント充填五ベソ  
 金冠 拾五ベソ  
 金入歯 拾五ベソ  
 総入歯 六拾五ベソ  
 診察時間  
 午前九時より  
 午後八時まで

**DR. E. BULJEVICH**

BDO. DE IRIGOYEN 1404  
 U. T. 23 - (B. O.) 0279

## GRAN "EL ASAHI" TALLER

de MIYAZONO Hnos.

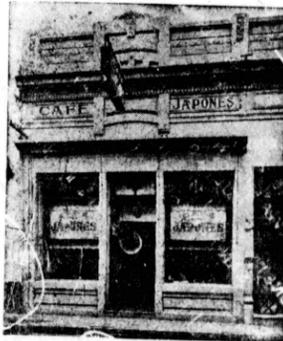
Casa Matriz:  
 CHARCAS 1873 - U. T. 44, JUNCAL 4366  
 Sucursales:  
 BME. MITRE 2511 - U. T. 47, CUYO 7159  
 RIVADAVIA 5202 - U. T. 60, Caballito 4738  
 BUENOS AIRES  
 CONSTITUCION 148 - U. T. S. Fernando 45  
 SAN FERNANDO, (F. C. C. A.)

## CAFE JAPONES

de K. UCHINO

LAS HERAS 667

TUCUMAN



ツクマン市  
 内野喜吉

## KEROFIX

DEL Sr. ALEMAN (MARTIN)

**M. SEITZ & Cia.**

Exposición y Venta:  
**DEFENSA 321**  
 U. T. 33-1529

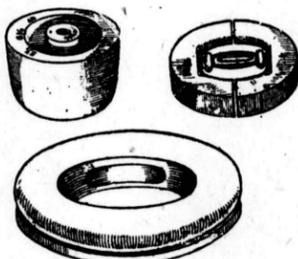
Talleres:  
**CHARCAS 4511**  
 U. T. 71-9998

プレンチヤ機  
 カルデー用のケマ  
 ドレスデケロセン  
 製作販売修繕取  
 付交換引受け。  
 当方はカーサボル  
 カン以未御馴染の  
 独り人々日本人間に  
 数多の顧客を有し  
 仕事は入念迅速・電  
 話で御一報次第至  
 急参上致します。

## LUIS GORI Hnos.

LIMA 1029

U. T. 23-2897



帽子木型製造工場

チントリアの仕立  
 上下手は型番番  
 に依ります。  
 仕事に上々にふさ  
 には良い型番を使  
 はせませぬ。  
 弊工場はマデラブラ  
 アテラコラ、アルカ  
 ー、製革流行型あり  
 りゆる型番最新かつ  
 價値供給し、田舎か  
 の脚注文にも應じます。

## CAFE Y CERVECERIA LA "SATUMA"

有水武二  
 久松純雄  
 竹内武義  
 加藤吉隆

General HORNOS 54

U. T. 23 - 0526

BUENOS AIRES

## Casa MALIS

DEFENSA 717

U. T. (33) 4382

カフェエ店  
 就労用衣類の  
 御用命は弊店へ  
 サコラシコ ミニ  
 黒チヤコ ミニ  
 黒サコ ハン  
 上等をキミタマ



## Herrero y Magioncalda

AUTOMOVILES Y CAMIONES  
 NUEVOS Y USADOS

Reparaciones en general

La casa más acreditada entre la colectividad japonesa

## PAVON 3737

(LANUS)

U. T. 241, Lanús 793

新旧自動車  
 修繕並に販賣  
 当店は日本人諸彦間に  
 絶大の信用と数多の顧  
 客を有して居ります

かまぼこの  
 御注文は村武へ  
 原料精選  
 味は良くて  
 値段は安い  
 御入用の節は電話で

Marcos Paz 1941

U. T. 67-4838  
 FLORESTA



GRAN

MERCERIA  
 Y BAZAR

Casa fundada en el año 1928

PRIMERA Y UNICA CASA JAPONESA

Últimas Novedades Para la Moda  
 Creaciones en Artículos Japoneses

SE ATIENDEN PEDIDOS TELEFONICOS

優良品  
 廉価販賣  
 員服大物・小同物  
 雑貨・最新流行婦  
 人用品及び御家庭  
 用品一切小賣店  
 同席F限リ割引  
 保険事務切  
 公認代理人  
**林甚次郎**

C. Pollegri  
 1153

U. T. 41,  
 Plaza 1306

## TALLER MECANICO A. MENDEZ

CALLE VERA 737 - U. T. DARWIN 1108



カルボンナフタ又はロカス汽  
 乾燥機(予選し又はモートル)  
 其他洗濯機種の修繕に應ず

## 11 DE FEBRERO, doble aniversario del Japón

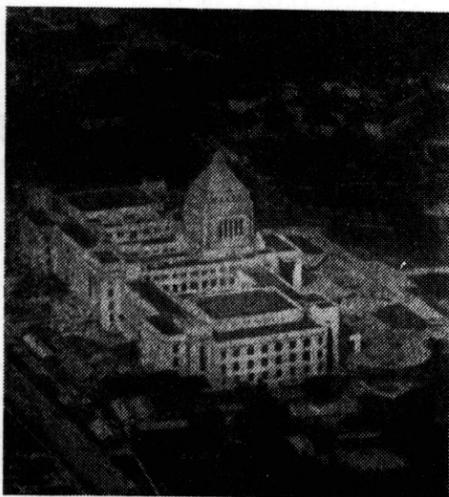
Dedicamos este número al doble aniversario del Japón: la fundación del Imperio por el Emperador Jimmu hace 2598 años, y la promulgación de la Constitución Imperial vigente que data del año 1889 de la era Cristiana.

La nacionalidad japonesa que tiene una característica peculiar, con una organización “sui generis” que se considera un modelo de unión y disciplina nacional, con una familia reinante venerada por su pueblo a través de 26 siglos, que es un caso único en la historia del mundo, sumadas al hecho de que el Japón es el país que jamás ha sido invadido por extraños, hacen que los nipones sientan un orgullo bien justificado que ningún otro pueblo de la tierra puede igualar.

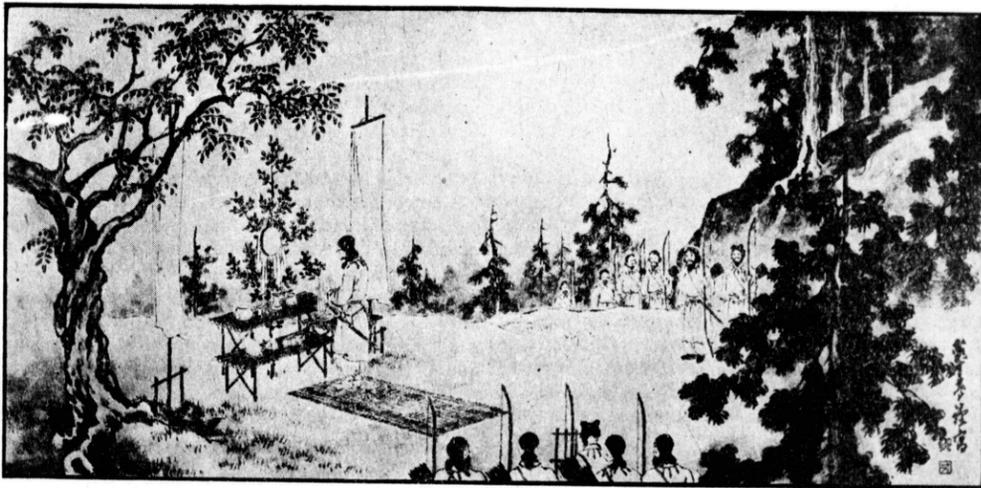
El aniversario de la promulgación de la Constitución, que señala el punto de partida de la nueva organización del Imperio, institucionalmente basado al sistema occidental, que es el Japón moderno, recuerda la oportunidad de este cambio, la sabiduría de su adaptación de acuerdo con las conveniencias nacionales, ha hecho resaltar a la vez la importancia de la cultura tradicional del país, la cual no sólo sirvió de base para sostener la nueva construcción moderna, sino que imprimió a ésta el espíritu invariablemente firme de la nacionalidad del Yamato, que así ha podido vigorizar la civilización nipona que empiezan hoy a estudiar con interés los intelectuales del viejo mundo europeo, asombrados del desarrollo japonés del último medio siglo en todas las manifestaciones de la actividad humana.

El Imperio Nipón celebra este año su aniversario, en medio, de una emergencia nacional que pone a prueba su fortaleza y animado de un idealismo muy en tono con la nobleza del alma de SAMURAI, a fin de imponer los principios de la justicia universal, lucha para establecer la base de la paz duradera en el Asia Oriental, que eventualmente dará la paz universal que ansian todos los hombres de la tierra.

La victoria final del Japón no se discute, pero el mundo está lleno de insensatos. La tarea colosal que deberá realizar el Japón es tal que no hay ejemplo comparable en la historia. El Japón está luchando para unir al mundo sobre una base justa y razonable para no permitir el dominio de los llamados fuertes contra los débiles, ni tolerar las



TEIKOKU GIKAI el nuevo palacio de la Dieta Imperial.



Reproducción del único cuadro histórico existente en el Japón de la ceremonia de la proclamación de Jimmu Tenno, el primer emperador y fundador del Imperio, que tuvo lugar en Kashiwahara, provincia de Yamato.

diferenciaciones raciales que son fruto del egoísmo. La misión del Japón es grande, pero la decisión firme de la nación nipona que encuentra apoyo en todos los corazones nobles del mundo, logrará su propósito que es la humanización del mundo en el siglo XX.

Considerada así la situación del Imperio que con su prestigio domina al Oriente, y conscientes de nuestro deber como súbditos del Emperador, adherimos a la celebración de este día, cuyo recuerdo histórico nos anima más para mejor contribuir al éxito del desenvolvimiento glorioso del Imperio.

**TENNO HEIKA BANZAI DAI NIPPON TEIKOKU BANZAI BANZAI, BAN-BANZAI!**

### La actitud insolente de las potencias para con el Japón

El asunto de la semana relacionado con el Oriente ha sido, sin duda, lo referente a las notas de Estados Unidos, Gran Bretaña y Francia, enviadas a Tokio en procura de informaciones respecto a la política naval del Japón, calificadas, con razón, de absurdas en el Japón.

Las informaciones siempre tendenciosas han hecho aparecer, en verdad, a las potencias occidentales en una situación ridícula, pero no nos extrañamos de los procedimientos de esas potencias y no dudamos de que las noticias ventiladas hayan sido dadas por las cancillerías interesadas para preparar la opinión pública mundial en contra del Japón, en la esperanza de impresionar a éste, para que ceda ante sus exigencias injustas y carentes de razones.

Hablaron todos los diarios del mundo, sin hacer siquiera caso del texto de la misma que explica el motivo del pedido que, por ejemplo, la nota británica dice textualmente: “... al gobierno de Su Majestad le agradecería recibir una respuesta del Japón...”.

La mayoría de los diarios dieron la información en letras de molde, con títulos llamativos: El Japón fué emplazado por las potencias para contestar sobre el armamento naval; Ultimatum de los Estados Unidos y Gran Bretaña al Japón, etc., en vez de decir que las potencias en dificultad piden por favor informaciones del Japón.

Por otra parte, la cortesía internacional en estos casos no admite tales publicaciones. Es norma corriente hacer consultas reservadamente en benefi-

cio de las buenas relaciones. No lo hacen entre las potencias europeas o entre los Estados Unidos y Gran Bretaña o Francia semejantes preguntas de Estado en tan abierta y descortésmente como lo han hecho con el Japón, como habían estado acostumbrado con él hace muchos años, haciéndose olvidados, a propósito, que el Japón tiene que ser tratado igual que cualquier otra potencia, sin discriminación de ninguna clase. Es esa la causa fundamental del mal estado de relaciones de esas potencias para con el Imperio del Sol Naciente que está para hacerse respetar, a pesar de hallarse en el Oriente.

No nos incumbe la forma que responderá el Gobierno de Tokio, pero la opinión japonesa toma nota de este procedimiento, que es justamente lo que quiere que desaparezca para siempre en su trato con el Japón y con los demás países del Oriente, en igualdad de condiciones para todos. La justicia, libertad e igualdad para todos.

¿Qué habrían dicho en el Occidente si hubiera mandado el Japón esa clase de nota a Gran Bretaña o a China, Seguramente que habrían protestado o abusado del Japón para reprimir su actitud, ya que no tienen reparo en culpar la actitud japonesa aun cuando está basada en derecho, justicia y legalidad internacionalmente reconocida, sólo para hacer daño ante la opinión pública que ignora la verdad y que cree con buena fe lo que pretenden hacer conocer ciertos hombres de posición de responsabilidad, quienes lo hacen a sabiendas en la esperanza de sacar ventaja para su interés.

La moralidad internacional de hoy tiene mucho que mejorar y corregirse todavía. Mientras los hombres de estado obren con ese criterio anacrónico de Talleprand, en vez de hacerlo con franqueza y lealtad al estilo nipón, la paz del mundo estará lejana, porque aquel método sirve para agitar y ocasionar disturbios, produciendo desconfianzas que nunca podrán mantener la paz duradera. Con razón, el Japón ha sido el único país en el mundo que conoció tres siglos de paz continuada en su país antes de abrir sus puertas a los europeos.

**H. KATO**

Unica Fábrica Japonesa de Tejidos  
de Sedas y Gran Instalación  
de Tintorería

HERRERA 2097 y 2111 U. T. 21-1841

# PAGINA DE ACTUALIDADES

## LA RESPUESTA JAPONESA

TOKIO, febrero 9. — Acerca de la respuesta japonesa a las comunicaciones de Gran Bretaña, de Estados Unidos y de Francia, los ministerios de Marina y de Relaciones Exteriores han llegado el día 9, a una conclusión, después de importantes deliberaciones.

El día 10, ésta será presentada ante la reunión ministerial extraordinaria por medio del Ministro de Relaciones Exteriores, señor Hirota y en el mismo día será entregada a los embajadores de las tres naciones acreditadas en la Capital Imperial. No hay lugar a dudas de que en esta nota-respuesta se hará una clara exposición, para no motivar la duda y errores de interpretaciones de otros pueblos, de la posición japonesa a adoptarse ante el mundo y de la inquebrantable fe de los 100 millones de nipones en el poder de la justicia.

En síntesis dirá que: El Gobierno Imperial ha sostenido, en la Conferencia Naval de Londres, celebrada en el año 1936, que la limitación cualitativa no acompaña de la cuantitativa y las remisiones recíprocas de las notas sobre la construcción de sus países no puede contribuir en ningún modo al objetivo que persigue el Japón, es decir, el afianzamiento de la paz por medio de las limitaciones de armamentos. También dirá la nota contestación que esta proposición japonesa a este respecto no ha variado, aun hoy día, absolutamente en nada, ni podrá sufrir ninguna variante.

Aunque el Gobierno Imperial no es signatario de dicho tratado sostiene con toda justicia, y con el afán de contribuir a la armonía y al progreso de la humanidad, los principios de no agresión y de no amenaza, ya anunciados cuando la Conferencia de Londres.

Sabiendo todo esto no es extraño y completamente inexplicable que el gobierno de su país no haya pedido nada menos que "el programa de construcciones navales". No podemos de ningún modo acceder a sus pedidos.

Acerca de los rumores de la construcción de buques de 43.000 toneladas nuestro gobierno no tiene conocimiento de ello.

Francamente nos ha sorprendido la política de servirse de pretexto de la no contestación de nuestro gobierno para darles la rienda suelta a las construcciones de nuevas unidades.

El deseo del Gobierno Imperial de cooperar con otras potencias en cuanto a las limitaciones basadas en los principios cuantitativos y cualitativos conjuntamente, no ha variado en modo alguno, estando siempre dispuesto a participar en ellas.

## UN COMENTARIO OFICIAL

TOKIO, febrero 7. — El Jefe de la Oficina de Informaciones del Ministerio de Relaciones Exteriores, señor Kawai; hizo la siguiente manifestación de su opinión acerca del rearme en gran escala de Estados Unidos y de Gran Bretaña, a los periodistas extranjeros entrevistados el día 7.

"La base esencial del punto de vista del Japón acerca de las limitaciones de armamentos es la no

amenaza y la no agresión. Por consiguiente, nuestro país está dispuesto a someter a la consideración cualquier proposición extranjera basada en estos principios. Con todo en el Japón tiene la impresión de que las demás potencias navales han iniciado ya "la carrera armamentista". Es "la Gran Bretaña quien ha iniciado esta "carrera" en el año 1937 con el enorme presupuesto de libras esterlinas 1.500.000.000, destinado a cumplir en los cinco próximos años el plan del aumento de su potencialidad naval. En la Unión, el plan llamado de "Vinson" fué propuesto ante el Congreso el 28 de enero de 1938, cuyo propósito fundamental fué el aumento en 20 por ciento del límite asignado, en los tratados actualmente en vigor, para las construcciones navales. Quiero decir que si se aprueba este plan la Unión seguiría sin lugar a la duda el mismo paso iniciado por Inglaterra.

Acerca de las comunicaciones recibidas últimamente de la Unión y de Inglaterra no deseo formularles ninguna observación. Solamente quiero aclararles lo siguiente: según informaciones precedentes del extranjero nuestro país está construyendo acorazados de 43.000 toneladas cada uno, lo que no es cierto y esta afirmación no tiene ningún fundamento.

## LA PRENSA JAPONESA

Las opiniones de la prensa de Tokio, expresan el sentimiento japonés ante esta nueva afrenta que con tanto desdoro acaban de cometer "las potencias interesadas en ayudar al comunismo y al bandolerismo chino".

"Nichi-Nichi" considera que esta intervención lesiona los derechos de la defensa japonesa, y recuerda que el Japón denunció los tratados de Washington y de Londres. Gran Bretaña y los Estados Unidos adoptaron una actitud que constituye una especie de intimidación. Su actitud y la crítica brutal se asemejan a una intervención insolente".

Después de recordar el proceso de la conferencia de Londres, en donde, el verdadero plan de desarme presentado por el Japón fué rechazado por esas dos naciones, que son las responsables de la situación actual, dice: "Suponiendo que Gran Bretaña y Estados Unidos sabían que el Japón contestaría en forma negativa", considera la actitud de ambos países como "provocadora" e inspirada por el evidente deseo de construir buques de 40.000 toneladas.

"Asahi" estima que el Japón no tiene la obligación de contestar la nota y que una nueva conferencia naval sería perfectamente inútil. "Si esas naciones tuvieran la intención de intensificar su presión en el Extremo Oriente, ello sólo serviría para agravar la situación. Es innecesario explicar el por qué el Japón no tolerará tal eventualidad y que el primer deseo del Japón es prevenir los desmanes comunistas y restablecer el equilibrio y la calma en el Extremo Oriente".

"Gran Bretaña y Estados Unidos poseen actualmente las más grandes flotas navales, es decir, que no puede hablar otra potencia capaz de hacerles frente. Sin embargo, son los primeros en iniciar las construcciones navales contribuyendo a romper el equilibrio mundial y a amenazar seriamente la paz y el bienestar de la humanidad entera. Es éste el medio de practicar la política de buena vecindad y de la paz internacional?"

## SEÑALES DE MALESTAR EN CHINA SUS FUERZAS SE DIVIDEN

TIENSIN, febrero 8. — El movimiento de sublevación que hizo crisis en los baluartes del gobierno nacionalista chino, en Cantón y Suwan, pare-

ce que va tener repercusiones trascendentales en la política interna y externa de China.

TIENSIN, febrero 8. — En los últimos baluartes del Gobierno Nacionalista Chino, la ciudad comercial del Sur de China, Cantón y Suwan se ven envuelto en el tumultuoso conflicto fratricida, con el consiguiente desorden en las esferas oficiales y civiles. Este movimiento francamente revolucionario repercutió rápidamente hasta las primeras líneas de combate a lo largo del F. C. Lun Hai y, a pesar de la dirección personal de Chiang-Kai-Shek que está al frente de las fuerzas chinas, éstas revelan desde ya los primeros síntomas de la desorganización y de la rebelión.

1.º El general Feng Yu Hsiang que fué derrotado desastrosamente en los campos de Peng-Pu por la unidad "El Norte" del ejército japonés huyó a Cheng-Chow debido al temor de la justicia militar de Chiang-Kai-Shek.

2.º La ejecución del General Han-Fu-Chu ha provocado el levantamiento de sus partidarios, no solamente como un acto de indignación por su muerte, sino también debido al nombramiento del general, derrotado en Shantung, Yu-Hsueh-Chung. Además otras reformas fundamentales en el seno del ejército chino de Shantung, ha contribuido a la separación del ejército del finado general Han-Fu-Chu, y éste se vuelve furiosamente contra Chang-Kai-Shek.

3.º Todas las fuerzas del Mariscal Chiang-Kai-Shek, han sufrido continuas derrotas sin tener suficiente tiempo para recomponerse y reorganizarse. La escasez de materiales bélicos y de víveres llega a su extremo fomentando la desorganización y la indisciplina de los soldados, pues éstos en estas condiciones se ven tentados a emplear la fuerza sobre la población civil indefensa.

TIENSIN, febrero 9. — Informaciones de origen chino nos hacen saber que la revuelta de Cantón y de Suwan ha repercutido hasta Hang-kow en donde reina intranquilidad debido al temor del estallido del violento ataque entre ambos bandos que parece casi inevitable.

Cantón, 7. — Respondiendo a la sublevación de Cantón el Jefe de la División, comandante de Sanshui se plegó a la revolución lo que motivó el desorden y la situación caótica de la zona circunvecina. Las autoridades cantonienses tienen el propósito de bloquear el puerto de Sikiang a fin de no permitir la entrada de los buques de guerra japoneses.

Cantón, 7. — La revolución de Cantón no ha podido ser sofocada aún. Durante los días 3, 4 y 5 se produjeron choques de ambos bandos en las calles de la ciudad. Ayer por la mañana en Tounhan hubo más de 300 muertos. Anoche se oyeron varios tiros de fusiles. Se sabe que el dirigente revolucionario es el jefe de la policía y de la fuerza defensora de la ciudad, quien trata de derrocar al alcalde de Cantón. El jefe de la revolución es el partidario de Chen, ex-alcalde de Cantón.

## ¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

**CAFE DE SANTOS "AGUILA"**

ES UN PRODUCTO SAINT.

## LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Protijá - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

## ACTIVIDADES MILITARES

Shanghai, 9. — Una escuadrilla de la aviación naval japonesa compuesta de numerosos aviones, ha bombardeado el aeródromo de Suan Chang y las fortalezas de Wuchang, de Hangkow y de Hangyang. Todas las fortificaciones y las instalaciones militares han sido totalmente destruidas. En el citado aeródromo se encontraban 10 aviones a punto de salir al encuentro con los aviones japoneses. Pero éstos los destruyeron sin dar tiempo a abandonar la tierra. Uno de los aviones chinos que salieron al encuentro de los atacantes fué derribado.

Otra escuadrilla japonesa que realizó la incursión cerca de Cantón ha destruído el camino por el que traficaban los camiones militares chinos, y, además, la mayor parte de los autos y camiones militares, los últimos medios de comunicación de transporte. En consecuencia se cree que la fuerza militar china de esta región ha sido inutilizada totalmente.

Changteh, 8. — La unidad Sakanishi que avanzó conquistado con todo éxito la fortaleza de Nanhó, avanza en dirección al sur, apoderándose al atardecer del día 8, de la fortaleza de Tsingfeng.

Peng - Pu 8. — El ejército japonés cruzó el río Hwi delante del ejército chino que trataba de impedirlo, apoderándose después de destrozar las líneas defensoras, de la fortaleza china.

Changteh, 8. — La unidad Sakamishi que avanza a lo largo del F. C. Nanking-Hankow se apoderó al atardecer del día 7 de la fortaleza de Nan-ho.

Peng-Pu, 8. — El día 7 a través de la espesa neblina aparecieron en ésta procedentes de Hankow, varios aviones de bombardeo.

Ante los ataques antiaéreos de los japoneses, huyeron inmediatamente hacia el Noroeste. En cuya ocasión han dejado caer cuatro bombas en los suburbios matando a 15 civiles chinos.

Feng-Yang, 7. — El ejército chino de la zona del F. C. Tiensing-Pokow huyeron abandonando en los campos de batalla 7.000 cadáveres y 16.000 heridos debido a los recios ataques de la unidad motorizada japonesa. Fué identificado que el ejército chino derrotado completamente en Peng-Pu fué el general Feng Yushiang.

## Sastrería Japonesa

Fundada en el año 1916

de S. Katayama

PIEDRAS 572

U. T. 33-5452

## KOKUSAI BUNKA SHINKOKAI

Sociedad de Fomento de Cultura Internacional

TOKIO - JAPON

Agente en Buenos Aires: G. Yoshio Shinya

Facilita gratuitamente toda clase de informaciones culturales relacionadas con el Japón. Atiende personalmente todos los días hábiles, menos sábados de 16 a 18 horas en la secretaría del Instituto Cultural Argentino-Japonés.

Museo Social Argentino, Viamonte 1435.

## Bosquejo de la Historia Japonesa

## ORIGENES DEL JAPON

Los orígenes de la historia japonesa confunden con la mitología, como el correspondiente período de la historia griega. Son obscuros los hechos y sucesos constatados por las tradiciones, aunque aceptados como verídicos por los nipones. El "Kojiki" — libro de tradiciones antiguas publicado en el año 712 — contiene detalles minuciosos de las leyendas y costumbres de ese período mitológico hasta los primeros siglos de la historia política real del país. Los dioses moraban en "Takama ga Hara" — alto planicie de los cielos — localidad ignorada, dice el Dr. Nagaó Ariga en su historia del Imperio, cuya averiguación no pertenece a la esfera de la historia propiamente dicha, sino a la arqueología.

La palabra "Kami" — Dios — del japonés no posee exactamente el mismo significado que ella tiene en otros idiomas o religiones, dice el Marqués Okuma en su "Kaikoku Gojunen Shi", cincuenta años de Historia Moderna; Kami quiere decir también superior, de manera que puede ser interpretado como personaje superior o super-natural.

La creación del mundo, según la versión japonesa, fué la obra de Ameno Minaka Nushi no Mikoto, secundado por Takami Musubi no Kami y Kami Musuki no Kami, conocidos como tres dioses creadores. Tras de, seis generaciones más de dioses celestiales, aparecieron el Dios Izanagi y la Diosa Izanami, primera pareja divina, quienes en forma milagrosa crearon las islas del Japón, descendiendo en la de Awaji, situada en el mar interior del Japón, casi en frente del moderno puerto de Kobe.

El Japón de aquellos días, llamado O-Ya-Shima no Kuni, país de las ocho grandes islas estaba constituido por las siguientes: Yamato, parte sur de Honshú, cuya parte norte era desconocida; Awaji, Shikoku, Kiushú, Iki, Tsushima, Oki y Sado.

Los izanagi fueron padres de una multitud de dioses, comenzando con las Diosas del Sol y de la Luna, quienes, por su extraordinaria belleza fueron enviadas a la región de los cielos. El dios de la buena ventura y la abundancia — "Daikoku" — venerado por los agricultores y los comerciantes y el "Ebisu", dios del mar y de la felicidad que es adorado por la gente del mar y pescadores, fueron también hijos de los Izanagi. El primer hijo varón, Susanno-no-Mikoto, que desde niño fué muy travieso, de espíritu intrépido, siendo grande conservó sus modales bruscos que eran motivo de disgustos, especialmente de su hermana, la diosa del sol, quien trató de corregirlo, sin conseguirlo, con la autoridad que poseía en calidad de hija mayor, ordenó el destierro de Susanno, destinándolo a "Ne no Kuni", lugar que tampoco se sabe dónde existió.

A propósito del viaje de Susanno, hay una leyenda que relata su valentía y que es parecida a la de San Jorge de Inglaterra. Al llegar al país de Idzumo, en la costa norte de Yamato, en el mar del Japón, salva la vida de una joven que debía ser ofrecida como tributo al dragón de ocho cabezas — patrono del territorio —, matándolo. Cuenta la leyenda que de la entraña de dicho dragón extrajo Susanno una hermosa espada, la cual mandó de regalo a su hermana, la diosa del sol. Esta espada, que se llamó "Murakumo no Tsurugi", es la que la diosa legó junto con el Espejo y

el Collar, y que en conjunto forman los Tres Tesoros Sagrados de la Familia Imperial del Japón.

Susanno se casó con la joven, cuya vida salvó, que resultó ser la hija del jefe de la tribu, radicándose temporalmente en Sugano. Tuvo un hijo, O-Anamuchi-no-Kami, quien fué respetado como descendiente del dios de los cielos y benefactor de la región, que llegó a ser gobernador de la comarca, siendo bautizado con el título de O-Kuni-Nushi no Mikoto, o Dios Patrono del País. El Gran Templo de Idzumo está erigido en su honor. Se supone que Susanno se dirigió después al destino de su destierro.

Ama Terasu O-Mi Kami, Gran Diosa que ilumina los cielos, la diosa del sol, que había enviado varias expediciones para conquistar la tierra de Toyoashihara no Midzuo no Kuni, que así era conocido el Japón entre los dioses, sin que hubiera vuelto ninguna ni obtenido informaciones de los resultados de tales misiones, previa consulta con los 800 millares de dioses, resolvió por fin encomendar la tarea someter el país que habría de ser reinado y gobernado hasta la eternidad por los descendientes de la divina familia, a su propio nieto, Ninigi no Mikoto, a quien le entregó como símbolo del poder, las tres regalias ya citadas: El espejo, la espada y el collar.

Ninigi no Mikoto se alejó de Takamagahara, acompañado por tres consejeros: Ameno Koyate no Mikoto, Ameno Oshih no Mikoto y Futodama no Mikoto, fundadores de las familias de Nakatomi, Otomo e Imube, respectivamente, que desempeñan importantes roles en la historia después; llevando a sus órdenes un contingente numeroso de dioses y semidioses. El ejército de Ninigi descendió sobre el monte Takachiho, situado en Hyuga, sudeste de Kiushu, acampándose en la región. Pasaron generaciones durante cupo espacio de tiempo hicieron los preparativos necesarios para emprender con éxito la conquista terrestre ordenada por Amaterasu.

## LA FUNDACION DEL IMPERIO

Le tocó en suerte dirigir la empresa a Kan Yamato Iware Hiko no Mikoto, bisnieto de Ninigi no Mikoto quien, después de siete largos años de campaña, consiguió pacificar todas las regiones entonces conocidas del país, estableciéndose en Kashiwabara, provincia de Yamato, en donde se proclamó Emperador del Japón en el año 660 antes de Cristo. Fué el que la posteridad conoce con el nombre de Jimmu Tenno — fundador del Imperio y de la dinastía — que reinó después durante 65 años.

## EL ALMIRANTAZGO HIZO LOS PLANOS DE UN BUQUE QUE SERA EL MAYOR DEL MUNDO

Londres, 10 (UP). — Los gobiernos de Estados Unidos y Gran Bretaña han convenido en construir barcos de guerra que superen el límite de 35.000 toneladas para los acorazados, y de 8.000 para los cruceros, fijado por el tratado naval de Londres.

Antes de anunciar esta decisión esperarán recibir la respuesta japonesa.

De fuente fidedigna se sabe que los peritos del Almirantazgo británico han terminado los planos para la construcción de acorazados de mayor tonelaje que el "Hood", que tiene un desplazamiento de 42.000 toneladas y es el buque de guerra más grande del mundo.

Se espera que en breve se presentarán al gabinete los planos para la construcción de cruceros de más de 10.000 toneladas.

## Declaraciones del Gobierno del Japón sobre la Conferencia de Bruselas

### Conclusión.

Además, en 6 de octubre la Asamblea General de la Liga no solamente estimó que la acción del Japón constituía violación al Pacto Antibélico y al Tratado de las Nueve Potencias, sino que también adoptó el acuerdo de hacer un llamado de abierta ayuda en favor de China. Tales medidas por parte de la Liga de las Naciones, demuestran que ha cedido a la hábil trama del Gobierno de Nankín para ejercer presión sobre el Japón mediante la intervención de las terceras potencias; y el resultado será animar a China en su franca oposición contra el país vecino y hacer cada vez más difícil que nunca la solución del asunto. Debe decirse, pues, que la Liga de las Naciones en este caso está repitiendo su error de hace pocos años.

La acción del Japón se reduce a simples medidas de defensa propia ante el desafío de China, de donde, fácilmente se infiere que no se trata en este caso de violación al Tratado de las Nueve Potencias. Además, si se considera la época en que se celebró el Tratado aludido, la situación en el Este de Asia se ha tornado totalmente diferente a causa de la influencia comunista y de los cambios ocurridos en las condiciones internas que hoy prevalecen en China.

En todo caso, por lo que ve a la conferencia de los signatarios del Tratado de las Nueve Potencias, de antemano se sabía que la mayoría de los partícipes se verían precisados a ceñirse a las ya citadas resoluciones de la Liga y si el Japón hubiera participado en las deliberaciones, ningún resultado bueno ni justo podría haber esperado, tal como aconteció en las reuniones de la Liga con motivo del incidente de Manchuria. Especialmente, dado que la conferencia se desarrolló entre potencias que no están directamente interesadas en el Asia Oriental, ya estaba calculado que se exaltarían los sentimientos, tanto del Japón como de China, con la consecuencia de complicar la situación; pero sin conducir en modo alguno a una solución.

La nación japonesa ergida como un solo hombre, está unificada en la determinación de salvar

todos los obstáculos para conseguir su propósito de un rápido arreglo. El Japón no es de ninguna manera indiferente a la cooperación internacional; pero las dificultades chino-japonesas pueden decidirse únicamente mediante negociaciones directas entre los países a quienes incumbe la responsabilidad de la situación y de la estabilidad de la región de que se trata. Lo que se requiere es la eliminación de la política antijaponesa de Nankín y de los elementos comunistas que se han identificado con ellos; de esa manera podrá establecerse y durar la paz basada en la unidad y en la cooperación chino-japonesa. El Japón no ha considerado jamás al pueblo como enemigo, ni abriga ningún propósito de adquisición territorial. Es su más sincero deseo velar por el adelanto material y espiritual del pueblo chino; anhela promover la cooperación económica y cultural con los países que tienen intereses en China y se propone al mismo tiempo, respetar plenamente sus intereses y sus derechos allí existentes. En tal sentido, tan pronto como las potencias se persuadan de las verdaderas intenciones del Japón y tomen las medidas adecuadas para hacer que el gobierno de Nankín reconsidere su actitud y su política, se habrá abierto el camino de su cooperación respetuosa con el Japón y entonces, sólo entonces, el conflicto actual podrá quedar definitivamente resuelto.

Incluya un crucero alrededor del mundo en sus próximas vacaciones

•  
Cuando vaya usted a Europa, hágalo pasando por el Oriente

•  
PASAJES MUY VENTAJOSOS

•  
Para informes dirigirse a:

**Osaka Shosen Kaisha**

Diagonal Roque Sáenz Peña 616. - 2.º piso

F I N

<p><b>"NAMBEI"</b> Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3071 T. T. Buenos Aires, 904</p>	<p><b>T. NISHIZAWA</b> Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p><b>F. KANEMATSU y Cía. Ltda.</b> Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p><b>S. TSUJI</b> Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p><b>H. KATO</b> Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p><b>S. YAMADA y Cía.</b> Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE <b>Marca KANEBO</b> PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p><b>LA MAISON SATUMA</b> K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p><b>SADAO HATTORI</b> IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p><b>IIDA y Cía. Ltda.</b> (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p><b>M. OMURA</b> Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p><b>G. KATO (C. YUASA)</b> Representante de KATO BUSAN KAISHIA Ltd. Av. Roque Sáenz Peña 825 U. T. 35-5696</p>
<p><b>KATSUDA y Cía.</b> Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2813</p>	<p><b>R. HARA y Cía.</b> Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9487</p>	<p><b>S. ANDO y Cía.</b> Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296;</p>	<p><b>Sastrería JAPONESA</b> Fundada en el año 1916 de <b>S. KATAYAMA</b> PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p><b>B. TAKINAMI</b> Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p><b>CARLOS C. ISHIY</b> Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p><b>JIRO HONDA y Hno.</b> Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p><b>GUIA JAPONESA</b> LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193. CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
<p><b>I. HIROTA</b> Importador de artículos generales del Japón CHILE 1080 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p><b>S. YOKOBORI</b> Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Esq. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa <b>"YAMANAKA"</b> Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4893. COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>
<p><b>N. IKEDA</b> The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 38 - 4031</p>	<p><b>TARO MURAI</b> Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 468 - U. T. Retiro 24-8180</p>	<p><b>K. YASUNAGA</b> Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1897 - U. T. 38-7769</p>	